

## ■第2回武蔵野市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

●日時：平成29年12月20日(水) 19:00～21:00

●場所：武蔵野市役所 811会議室

●武蔵野市緑の基本計画検討委員会 出席者9名、欠席者1名

阿部委員長、池田委員、小田委員、喜内委員、小松委員、鈴木委員、曾田委員、田中委員、平田委員

●事務局

・環境部 緑のまち推進課長 他9名

・株式会社総合設計研究所：2名

●次第と主な議論内容

### 1 報告事項

#### (1) 視察

東京都立駒沢オリンピック公園の民設民営によるレストランの事例及び西東京市(西東京いこいの森公園)の市民協働と指定管理者制度の導入の事例について、視察報告を行った。

#### (2) 緑のワークショップ報告

公園やオープンスペースの将来像や使い方を検討するにあたり、多様な関わり方を模索し、新たな視点を取り入れるため、市内に在住・在学の大学生や在勤の若い世代を対象として開催したワークショップについて報告した。

#### (3) 奥多摩武蔵野の森の現地見学の報告

東京の森を守り育てるための取組みである「奥多摩武蔵野の森事業」の現地見学の報告を行った。

#### (4) 庁内検討委員会のメンバーの追加について

庁内検討委員会に「防災安全部防災課長」をメンバーに追加したことを報告した。

### 2 議事

#### (1) 課題の整理について

・第1回検討委員会のご意見を加味して、論点整理や課題について資料を提示した。各委員の日頃の活動や立場上、感じていることを踏まえ、緑の基本計画を検討する上で課題や論点について意見交換を行った。

## (2) 新・緑の基本計画の構成案と今後の進め方

委員会で検討する項目及び進捗を共有するため、現行計画の構成をベースに、新・緑の基本計画の構成案の説明を行った。

### 3 閉会の挨拶

#### ●主な意見のまとめ ⇒：関連意見

##### 【緑との関わり方について】

- ・ライフスタイルの中で、緑の大切さや良さを実感することを広めていくことが大事である。
- ・緑を数値的でなく、生き物との関係や活動、エコなど広い意味で捉えることが必要である。
- ・実際の緑は様々な主体や活動が関わっているため、他分野や市内の他のセクションと連携することが大事である。
- ・吉祥寺は様々な人が来訪するため、外から来る人が参加できるような公園づくりや緑の取り組みを行うという仕掛けが必要である。
- ・子供たちに緑を受け継いでもらうためには働きかけが必要である。学校のビオトープや緑の管理に子供たちが関わる仕組みや情報発信の仕組みをつくり、興味を持ってもらうようにしてはどうか。  
⇒現状の問題として、「子供が自分の街に興味がない」ことや子供や保護者、学校が連携して緑の活動をする仕組みがないことが挙げられている。
- ・奥多摩の森に染み込んだ水が、100年かけて武蔵野市に染み出していること、武蔵野市の水道水の8割が地下水であることなど、離れた場所ではあるが武蔵野市の水を支えているのは森であるといった視点を持つことが大事である。  
⇒例えば、市内のレストランで鹿肉を食材として使用するなど消費者としての立場で多摩の自然の恩恵を感じてもらってはどうか。市民が現地に行くのではなく、違う支援の方法を考えてはどうか。
- ・11月に実施したワークショップでは、大学生等を対象としていたが、その場で出た意見や将来の可能性について、どのように緑の基本計画として記載していくべきか、今後の巻き込み方をも含めて議論を深める必要があるのではないか。

##### 【緑に関する活動や民間との連携について】

- ・駒沢オリンピック公園の事例で参考になることは、収益が一般財源に入るのではなく、東京都公園協会のサポーター基金に入るため、適正なコストで質の高いサービスを提供できる点ではないか。
- ・民間との連携については、規模が大きくかつ老舗な団体だけでなく、新しい団体や小規模なグループを巻き込む視点があっても良いのではないか。  
⇒個人を巻き込むために意識を向けてもらう仕組みが検討できないか。

- ・「学校の緑」、「公園のメインユーザーであるお母さんの視点」も論点に入れ、これに対する取り組みを検討する必要がある。
- ⇒小さい自助組織はある程度形となって責任を負える組織にならないと行政の財政的支援が得られづらい。また、小さな自助組織を行政だけで掘り起こし育てていくことは難しい。中間支援や自助組織の掘り起こしに民間を活用するのも一つの方法である。
- ・緑の手入れだけでなく、公園を介してみんなで集まるなどの楽しみもあるので、民間団体と連携できないか。
- ・公園の利活用は苦情ともリンクしている。公園の活用や魅力アップを考える際に、苦情に対する考え方を議論していきたい。公園活用のデメリットも認識した上で議論することで、実態にあった計画としていきたい。
- ・ワークショップなど意見を聞く際に、若い世代を含めた関係する市民の主体性を引き出す仕掛けが必要ではないか。

#### 【農地について】

- ・市内の農地は、この10年間で約4ha減少し、高齢化が進み後継者問題を抱えている。今の子供たちは土を触って楽しむという経験が少ないので、農業を体験する機会を増やしていきたい。
- ・三鷹市では、有志の方がITを使って農家の青壮年部の方々を支援するグループが立ち上がり、SNSなどを活用して農家をPRする取り組みを行なっている。農家のモチベーションが上がっているようで若い世代が活躍している様子が見られる。

#### 【緑に関する予算、維持管理費等について】

- ・武蔵野市の財政が将来厳しくなることについて委員会で検討していくために、緑に関する予算や費用がどれだけかかっているかという情報を事務局から示し、それを踏まえ、管理方法などの費用のかけ方について議論する必要がある。

#### 【新・緑の基本計画の構成について】

- ・緑の基本計画はトップダウン型でなく、行政と市民がフラットな立場で連携していくための計画にすることが大事である。
- ・色々な時代の緑の作り方が市内には残っており、武蔵野らしさや故郷を感じる緑の視点があっても良いのではないか。
- ・色々な主体や個人を巻き込むこと。行政の様々なセクションや緑と関係が薄い民間企業とも連携していくことなどを計画に盛り込み、様々な価値観と緑の取組みをつなげていくことが大事である。
- ・緑の基本計画の元になる考え方として、緑を媒介に人の関係性を豊かにしていくことが挙げられる。そういった視点での目標設定が必要ではないか。